

## 平成27年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

「入りたい学校」「入ってよかった」と言われる、地域に信頼される学校をめざす。

- 多様な進路希望を持つ生徒に対し、「確かな学力」と「生きる力」をはぐくみ、『夢のかなう学校』をめざす。
- 「人権意識」が身についた、「他を思いやる心」を持つ生徒を育成する。また、在籍する中国等帰国生徒及び外国人生徒と日本人生徒の「共生」をはかる。
- 生徒が「安全で安心」な学校生活を送ることのできる学校づくりと、地域に根ざした学校をめざす。

## 2 中期的目標

## 1. 確かな学力の育成と進路実現

(1) すべての生徒にとって楽しく「わかる・できる」授業をめざして、授業改善に取り組む。

ア 授業アンケート、授業充実研修、授業見学週間、授業公開を活用し、「視覚化・構造化・協働化」をテーマに授業改善に取り組む。

「視覚化・構造化・協働化」をより具体化するためのICTを活用した授業を研究する。

\*生徒向け学校教育自己診断における授業の満足度を平成29年度には70%以上をめざす。

\*生徒向け学校教育自己診断における選択科目の満足度(平成26年度79%)を平成29年度には82%にする。

(2) 希望する進路を実現できる「確かな学力」の育成

ア「総合的な学習の時間」やLHRの時間に、3年間を見通したキャリア教育や人権教育を実施し、多様な進路希望を持つ生徒それぞれの夢の実現を図る。

そのため、進学説明会、就職説明会、分野別説明会、進路体験学習、インターンシップなどを一層充実させる。

\*生徒向け学校教育自己診断における進路指導関係の項目の満足度(平成26年度72%)を平成29年度には75%にする。

\*学校斡旋就職率100%、希望する大学・短大・専門学校への進路実現率95%を維持する。

## 2. 「人権意識」が身についた「他を思いやる心」をもつ生徒の育成

(1) 総合的な学習の時間やLHRで人権教育を一層充実させることで、生命と人権を尊重し、他を思いやる「豊かな心」を持つ生徒を育成する。

ア「中国等帰国生及び外国人生徒」の学習状況や活動状況を校内で共有し、「日本人生徒」との共生を図る。

\*生徒向け学校教育自己診断における人権に関する項目における肯定率(平成26年度54%)を平成29年度には60%にする。

## 3. 安全で安心な学校づくりと地域に信頼される学校づくり

(1) 生徒の規範意識の醸成と個々の生徒への支援

ア 基本的な生活習慣の確立と規範意識の醸成を図る。また、保護者や関係諸機関との連携を図り、教育相談体制をさらに充実させて、課題を抱える生徒の支援を行う。

\*生徒向け学校教育自己診断における生活規律等の基本的な生活習慣に関する項目の肯定率(平成26年度71%)を平成29年度には75%以上にする。

\*保護者向け学校教育自己診断における生徒指導に関する項目の肯定率(平成26年度76%)を平成29年度には80%にする。

イ「高校生活支援カード」等を活用し、課題を抱える生徒の状況把握に努め、必要に応じて支援や外部機関等との連携に努める。

\*生徒向け学校教育自己診断における教育相談に関する項目の満足度(平成26年度43%)を平成29年度には48%にする。

(2) 生徒会活動や部活動を通じて生徒の自主性、自己有用感を醸成する。

ア 学校行事や生徒会活動を通してやる気のある生徒のリーダーシップを育てる。

\*生徒向け学校教育自己診断における学校行事、部活動、生徒会に関する満足度(平成26年度62%)を平成29年度には75%以上をめざす。

イ 部活動の活性化に継続的に取り組む。

\*部活動加入率は50%を維持する。

(3) 地域連携

ア 学校から積極的に情報を発信し、開かれた学校づくりを推進する。

\*近隣の中学校との連携や広報活動、地域連携授業、地域のイベントへの積極的参加等を通して、地域に根ざした学校づくりを推進する。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成27年12月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【学習指導等】 ・生徒の80(81)%、保護者の85(74)%が「この学校には他の学校にない特色がある」と答えており、生徒の多様な興味関心に応えるエリアや選択教科が高い肯定率の大きな要因となっている。「授業はわかりやすく、集中して受けることができる」が昨年度の49%から59%に大幅上がっている。これは今年度、全普通教室にプロジェクターとタブレット端末18台を導入した効果があらわれている。また「教え方に工夫をしている先生が多い」も54%から60%に上がっている。授業の視覚化が進んでいるからと考えられる。ただ、一方では分かりにくいとの意見もあり、今後研修等で教員のICT機器利用のスキルアップを図る必要がある。今後、さらに授業の視覚化・構造化・協働化を進め、生徒の「つなぐチカラ」をつきさせる授業作りに全校で取り組んでいく必要がある。</p> <p>【生徒指導等】 ・生徒指導の面で88(87)%以上の保護者が生徒を正しい方向に指導していると評価しているが、生徒指導の方針に共感できるという回答は70(67)%だった。教職員の93(89)%以上が生徒指導で家庭連携ができていると答えている。常識やマナー、他者への思いやりや配慮に重きを置く本校の生徒指導を、様々な機会に保護者に説明をして理解を得ることが必要である。また、方針に理解、共感していただくためにも、教育的効果がある提言等は積極的に取り入れていく。生徒の72(71)%が「生活規律や学習規律の確立に力を入れている」と肯定的に捉えており、「安全で安心な学校」を維持するためにも、全教職員が共通認識を持ち、協力して生徒指導にあたるのが重要である。「文化祭は周りと協力しておこなえる」74(55)%、「体育祭は周りと協力しておこなえる」74(60)%が大幅に上がった。これは教員が目標を明確にし、生徒がそれを理解した成果である。しかしながら「部活動は活発である」は54(45)%で上がってはいるが、さらなる活性化のために、現在頑張っている生徒を校内外にアピールし、本校の部活動を知ってもらう取組をおこないたい。今後、全ての学年で「やる気のある」生徒のリーダーシップを育成することが、生徒の自主性を伸ばすとともに生徒会活動や部活動さらには学校生活の活性化につながっていくものと考えられる。79(72)%の保護者が進路指導に対して肯定的に答えている。これは大阪府内平均よりも高い就職内定率や進学希望者ほぼ全員の合格率を誇る進路指導への信頼感が大きく影響している。今後は進学指導を充実させ、進路・学年が連携し講習等の指導に取り組む必要がある。文化祭や体育祭等の行事、部活動活性化等における生徒会役員の貢献は非常に大きい。今年度は、学校説明会などを生徒会を中心におこなった。今後、さらに生徒が活躍できるように工夫したい。生徒会役員や生徒委員会を中心・リーダーに据え、全ての学年で生徒会活動への理解を深める必要がある。</p> <p>【学校運営等】 ・「相談に適切に応じている」と答えた保護者は83(81)%であった。今後連携を密にして共通認識を持つことが必要である。一方「困っていることに真剣に対応してくれる」と答えた生徒は57(56)%だった。生徒の満足度を上げるためには、教員と生徒と関わる時間(量)の確保とカウンセリングマインドをもった生徒との関わり(質)を学校全体で検討し、工夫する必要がある。「学校は、家庭への連絡や意思疎通を積極的に行っている」が85(49)%で大幅に上がった。これは校長ブログや学校広報Tブログなどが学校の情報を発信したことが大きく影響していると考えられる。今後さらに学校からの情報を素早く発信できるシステム作りを考えていく必要がある。( )内の数字は昨年度の結果</p>	<p>①第1回(平成27年6月9日) ア)今まで、普通科総合選択制(普総選)でいろいろなことに取り組んできたことは評価できる。今後は、普総選での取組を活かし、地域活動を単位認定したり、キャリア教育でも地域の力を借りることが必要である。改編に当たっては、生徒のニーズに合わせた科目選択システムの構成や、検定やボランティアなどの単位認定を行ったり、教科の枠を超えた科目を設定するなどの工夫が必要である。 イ)中学生は「部活動が活発」「生徒指導がきちんとしている」「特色ある授業」などで成美高校を選んでいる。改編により、生徒にどんなメリットがあるのか明確にし、具体的に示して示していく必要がある。「めざす学校像」の中にあるように、夢に向かって進むことができる学校に改編してほしい。 ②第2回(平成27年9月30日) キャリア教育の充実や幅広い学びを実践し、総合学科に近い取組をしていることは評価できる。改編を機に、どんな仕事をしたいのか、どんな学校に行きたいのかという教育ではなく、どう生きていくのか、どんな生活をしたいのかなど、生徒が生きていくための夢を育む教育が必要である。すべての生徒が夢をもって入学してくるわけではない。そんな生徒のために、夢に出会い、目標や夢を見つけられるような学校をめざしてほしい。 ③第3回(平成28年1月27日) ア)普総選の強みを活かすことが重要である。普総選としてのエリアの実績があるので、エリアを活かした新しいタイプの学校をめざしてほしい。 イ)ICT機器を設置し、ICTを活用する授業が増え、生徒も楽しんで積極的に授業を受けるようになった。 ウ)「産業社会と人間」では、学びに向かう好奇心を駆り立てるような内容で、生徒自らが調べたいと思うようなものにする。成美高校は、夢を見つけられる、そしてそこに向かって基礎基本を学べる学校をめざしてほしい。</p>

## 府立成美高等学校

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成と進路実現	<p>(1) すべての生徒にとって楽しく「わかる・できる」授業をめざした授業改善の取組み</p> <p>ア 授業アンケート、授業充実研修等を活用した授業改善の取組み</p> <p>イ ICTを活用した授業の研究</p> <p>(2) 希望する進路を実現できる「確かな学力」の育成</p>	<p>(1)</p> <p>ア・「授業アンケート」を分析して課題を把握し、授業改善を継続する。</p> <p>イ・授業充実研修でICTを活用した授業を実践例とした研修を実施し、相互研鑽の場とする。</p> <p>(2)</p> <p>ア・進学希望先に応じた小論文や面接指導の実施。3年間に実施する各種説明会や進路体験学習を充実させる。</p> <p>・基礎学力の向上をめざし、小テスト等を継続的に実施する。</p> <p>イ・就職支援コーディネーターを活用し、模擬面接、インターンシップ等を充実させる。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・「授業アンケート」の「教材活用」に関する肯定的意見 80%を維持(平成 26 年度 80%)</p> <p>・生徒向け学校教育自己診断の選択科目に関する満足度 80%にする。授業に関する満足度 60%以上をめざす。</p> <p>(2)</p> <p>ア・生徒の希望する進路の実現率 95%を維持。</p> <p>イ・1 回目の就職試験合格率 70%以上を維持。学校幹旋就職希望者の就職率 100%</p>	<p>(1)</p> <p>ア・授業アンケートの「授業展開」について、第 1 回 84%、第 2 回 84%が肯定的な回答をしている。(◎)</p> <p>・生徒の 80%、保護者の 85%が「この学校には他の学校にない特色がある」と答えており、生徒の多様な興味関心に応えるエリアや選択教科が高い肯定率の大きな要因となっている。(◎)</p> <p>・生徒の選択科目に関する満足度 81%、授業に関する満足度 59%となり、ICT機器の導入もあり、授業の満足度が大幅に上がった。(◎)</p> <p>(2) ア 大学・短大・専門学校等への進路実現率は 99%、医療・看護系は 65.0%となっており、特に看護系が難化している。(○)</p> <p>イ 平成 27 年度の学校幹旋就職試験の一次合格率は 86%、学校就職幹旋希望者の就職率 100%となった。(◎)</p>
2 「人権意識」が身についた「他を思いやる心をもつ生徒の育成	<p>(1) 人権教育のさらなる充実</p> <p>ア「中国等帰国生及び外国人生徒」と「日本人生徒」との共生</p>	<p>(1)</p> <p>ア「総合的な学習の時間」やLHRで人権教育に関する指導を充実させるため、多文化理解公演を2回実施する。1年生は中国文化理解LHRで中国等帰国生徒の卒業生との交流や中国食文化の体験などを行う。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 生徒向け学校教育自己診断の人権に関する項目における肯定率 56%(平成 26 年度 54%)</p>	<p>(1)</p> <p>ア・生徒の 50%が「豊かな心や人の生き方について考える機会がある」、57%が「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」と答えている。肯定率は左記の評価指標の目標 56%には至っていない。3年生については 65.8.%と指標を超えているが、全体としては 53%となっている。1 年次からの計画的に人権学習を実施していく必要がある。(○)</p>
3 安全で安心な学校づくりと地域に信頼される学校づくり	<p>(1) 生徒の規範意識の醸成と個々の生徒への支援</p> <p>ア 基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成</p> <p>イ 教育相談のさらなる充実</p> <p>(2) 生徒の自主性、自己有用感の醸成</p> <p>ア 生徒会活動のさらなる充実</p> <p>イ 部活動のさらなる活性化</p> <p>(3) 地域連携</p> <p>ア 地域から信頼される学校づくり</p>	<p>(1)</p> <p>ア・全教員による登校指導の継続実施</p> <p>・遅刻指導・服装指導の徹底を図り、基本的生活習慣を確立させる。遅刻の多い生徒に対しては必要に応じて放課後指導を行う。</p> <p>イ・「高校生活支援カード」を活用しサポート委員会、教育相談委員会やスクールカウンセラーと連携し、課題を抱える生徒の状況把握をする。必要に応じて「個別的教育支援計画」の作成や、ケース会議の開催、関係諸機関との連携を図る。</p> <p>・人権教育推進委員会、CF委員会(中国等帰国生徒及び外国人生徒に対する検討委員会)が連携し、情報の共有、迅速な対応を図る。</p> <p>(2)</p> <p>ア・体育祭、文化祭の企画運営、学校説明会等での活躍の場を一層増やし、生徒会役員をリーダーに据える。</p> <p>イ・新入生オリエンテーション、体験入部を実施。</p> <p>・新規事業として中学生対象の「部活動体験」を8月に実施。</p> <p>・大会やコンクール入賞の部の支援を行い、さらなる活性化をめざす。</p> <p>(3)</p> <p>ア・地域のイベント等への積極的参加</p> <p>・生徒会役員、部活動部員を中心に地域清掃等へのボランティア参加</p> <p>・中高連携、地域連携授業をさらに充実させ、積極的に学校の情報を中学校や保護者に発信すると共に、開かれた学校づくりを推進する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・生徒一人当たりの遅刻回数 5 回以下(平成 26 年度 3.5 回)</p> <p>・生徒の懲戒件数 15 件(平成 26 年度 17 件)</p> <p>・生徒向け学校教育自己診断の基本的生活習慣の確立に関する肯定度 72%以上(平成 26 年度 71%)</p> <p>イ・生徒向け学校教育自己診断の教育相談に関する項目における肯定率 45%(平成 26 年度 43%)</p> <p>(2)</p> <p>ア 生徒向け学校教育自己診断における生徒会活動に関する肯定度 68%以上をめざす。(平成 26 年度 62%)</p> <p>イ・部活動加入率 50%をめざす(平成 26 年度 46%)</p> <p>・大会やコンクールの入賞数 8 以上(平成 26 年度 5)</p> <p>(3)</p> <p>ア・地域のイベント参加数 10 件以上(平成 26 年度 10)</p> <p>・校区一斉清掃活動、南区クリーンキャンペーンへの参加各 15 名以上</p> <p>・近隣の 13 中学校訪問を最低 3 回ずつ実施</p> <p>・地域連携授業の継続実施</p>	<p>(1)</p> <p>ア 生徒一人当たりの遅刻回数 3.8 回、生徒の懲戒件数 19 件、生徒向け学校教育自己診断の基本的生活週間の確立の肯定度 72%であった。全教員による登校指導、遅刻指導、生徒指導により基本的生活習慣と規範意識の醸成がはかれた。(○)</p> <p>イ・昨年度からサポート委員会を設置し、支援カードの活用方法を検討している。57%が「先生はいじめなど私たちが困っていることについて真剣に対応してくれる」と答えている。(○)</p> <p>(2)</p> <p>・学校行事・部活動に関する項目における満足度は生徒 73%、保護者向けは 72%になり、昨年度より大幅に上昇している。(◎)</p> <p>・実施後のアンケートにおいても 98%の生徒が良かったと答えている。これには生徒会執行部の頑張りによるものが大きい。(◎) 今後はさらに生徒会執行部を中心に学校見学会などで活躍できる場を設ける。</p> <p>・部活動加入率は、全体では 44%になっている。(△) 年度当初より、退部する生徒が少ないが、加入率を高めるために体験入学等の入学当初の取組や大会入賞の支援を続け、引き続き中学生対象の体験入部、中学校とのクラブ交流を実施する。</p> <p>・放送部：第 62 回NHK杯全国高校放送コンテスト大阪大会総合 1 位校、書道部：第 36 回大阪府高等学校芸術文化祭書道部門第 3 位となり、府レベルでの表彰となった。硬式テニス部、軟式テニス部も中央大会に進出した。バドミントン部、ダンス部も堺市レベルでそれぞれ入賞している。サッカー部、バスケットボール部は、公式戦で勝利した。(◎)</p> <p>(3)</p> <p>・近隣の中学校訪問を 4 回以上実施し、中高連携を深めることができた。</p> <p>・地域のイベントには、32 件、533 名(延べ人数)、地域清掃等にも計 70 名(延べ人数)参加した。(◎)</p>